

# 令和7年度 篠井小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

## 1 教育目標（目指す児童像含む）

感性豊かで、ともに生きることを喜び、よりよい自己と社会のために考え、行動する児童の育成  
健康で明るい子ども（きたえる） よく考え 自ら学習する子ども（かंगाえる）  
すなおで親切な子ども（たすけあう） 根気よく働く子ども（がんばる）

## 2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

篠井小学校の歴史と伝統を重んじながら、全教職員の使命感と協働の精神を基盤として、次代を担う子どもたち一人一人が、未来社会において多様な人々と共生しながら社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていけるよう「心豊かでたくましく生きる力」を育む教育に取組、学校・家庭・地域が英知と熱意を結集し、一体となって「一人一人のよさが輝く活力あふれる楽しい学校」を目指す。

## 3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

### （1）育目標達成に向けた特色ある教育課程の編成と更新

教育目標の達成に向けて、最新の教育研究の動向を見据え、児童の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮しながら、地域の教育力を生かした創意工夫ある教育課程を編成し、特色ある教育活動を推進する。また、教育課程を常に評価し、よりよいものへと更新していく。

### （2）学校職員の資質の向上

学校職員が崇高な使命を自覚し、人間性と専門性、指導力の一層の向上に努めるよう環境を整え、研鑽を促す。その際、超過勤務の縮減など業務の改善を推進する。（学校職員の資質の向上）

### （3）人権尊重の精神に貫かれた学校経営の実現

### （4）職員一人一人の創意が生きる民主的な学校運営

学校経営のビジョンを明確に示し、全職員と共有し、教育活動や学校運営などの方策においてボトムアップ型の提案が増やす。

### （5）「地域とともにある学校」づくり

○保護者・地域・学校園内の学校及び各種団体、関係諸機関など、「チーム篠井小」との連携を密にし、「地域とともにある学校」づくりに努める。その際、保護者や地域に対して積極的に情報を共有し、信頼される学校を目指す。

[晃陽地域学校園教育ビジョン]

未来を見据え、地域と連携し、子どもが生き生きと学ぶ晃陽地域学校園

## 4 教育課程編成の方針

- （1） 関係法令、学習指導要領に基づき、栃木県教育振興基本計画、第2次宇都宮市学校教育推進計画等を踏まえ、各教科等の目標を達成、ひいては初等教育の目標を達成できるよう、必要な教育内容を組織的に配列する。また、今日的な社会の課題を解決するために必要な資質・能力を育成できるよう各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、教科等横断的な視点で教育の内容を組織的に配列する。
- （2） 教育目標である「感性豊かで、ともに生きることを喜び、よりよい自己と社会のために考え、行動する児童の育成」を実現するため、全人格的な陶冶をめざす教育課程を編成する。
- （3） 基礎的・基本的な知識及び技能及びこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、学びの原動力となる主体的に学習に取り組む態度をバランスよく養い、児童の生きる力、生涯にわたって学び続ける力を育む。
- （4） 児童の心身の発達の段階及び地域や学校の実態を考慮しながら、体験を通して学ぶことを重視するとともに、保護者や地域、専門家・関係諸機関等との連携・協働により社会に開かれた教育課程を編成する。
- （5） 小中一貫教育カリキュラムに基づき、保護者や晃陽地域学校園内の各学校と連携を図りながら、義務教育9年間を見通した系統的な教育課程を編成する。

(6) 前年度の教育課程について分析・評価し、校内各種計画と関連付けながら教育課程を改善することに組織的に取組、カリキュラム・マネジメントの確立、教育課程の一層の質的向上に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

○ 学力の向上

基礎・基本の確実な習得と思考力・判断力・表現力等を育むために、学びに向かう集団づくりと子どもが意欲的に取り組む授業づくり、児童の学習習慣の確立に努める。

○ 豊かな心の育成

「特別の教科道德」や体験活動を核に、あらゆる教育活動を通して、生きる基盤となる道德性を養うとともに、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動を推進する。

○ 児童指導の充実

基本的な生活習慣の確立、自己有用感と規範意識の醸成、望ましい人間関係と社会性の育成を図る児童指導の充実に努める。

○ 健康・安全教育の充実

生涯にわたって健康で安全で活力ある生活を実現する力を育むために、自らの身を守るための行動力や判断力の育成、心身の健康や体力の増進、望ましい食習慣の確立に努める。

(2) 学習指導

主体的に学び、自分の思いや考えを伝え合う児童の育成

～生活科・総合的な学習の時間の学習活動を通して～

(3) 児童生徒指導

基本的な生活習慣を身に付け、よりよい学校生活にするため自ら考え行動に移すことのできる児童の育成

(4) 健康（体力・保健・食・安全）

・自己の健康・体力に関心を持ち、進んで体力の向上に励む児童の育成

—運動の日常化を図るための教科体育と外遊びの工夫—

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>1 ペア学習やグループ学習を意識的に取り入れていくことにより、児童が他者と協力したり、情報を集めて考えを深めたりしながら学習に取り組めるようにする。</p> <p>2 児童の興味・関心のある教材を用いたり、課題の設定の仕方や発問を工夫したりし、主体的に学習に取り組めるようにする。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答： 89.4% 教職員の肯定的回答： 88.9%</p> <p>児童は数値指標を上回ったが、教職員は若干下回った。 教職員による授業形態の工夫や教材研究が行われており、児童も主体的に授業に臨んでいた。</p> <p>【次年度の方針】 一人一人の意欲や達成感を大切にしながら学習課題や形態についての工夫を行い、主体的に学習に取り組むことのできる雰囲気作りを行ったうえで、分かりやすい授業や個に応じた指導の充実を図る。</p>

<p>1- (2) 豊かな心を 育む教育の 推進</p>	<p>A 2 児童は、思いやりの心 をもっている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定 的 回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>1 生活の中で、時と場に応じた適 切な言葉使いの指導を推進する。 (ふわふわ言葉の推奨) 2 人権教育年間指導計画に基づ き、全教育活動を通して人権教育 を計画的に実施する。 3 児童会活動やふれあい班等によ る異学年交流を通して、相手の立 場を考えて思いやる心を育む。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答：92.9% 保護者の肯定的回答：93.8% 地域住民の肯定的回答：100%  児童・保護者・地域住民すべて数値 指標を上回った。  【次年度の方針】  人権週間や地域との交流活動を通し て、相手の立場を考えて生活することの 大切さを指導するとともに、異学年交流 を推進することで、互いに思いやる心の 醸成を図る。また、日頃から挨拶や適切 な言葉遣いを継続して指導する。</p>
	<p>A 3 児童は、目標に向かっ てあきらめずに、粘り強 く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定 的 回答 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>1 宮・未来キャリア教育年間指導 計画に基づき、児童が自らのよさを 自覚して夢や目標の実現に向け て取り組もうとする意欲や、望ま しい勤労観や職業観を、全教育活 動を通して意図的・計画的に育 む。 2 学校生活において児童の主体的 な活動を推進し、目標等を設定さ せるとともに、振り返りを充実さ せ、褒め合う活動を取り入れるこ とで、意欲の持続や高揚を図る。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答：75.8%  数値指標を下回った。今年度は、児童 の主体的な活動を推進するとともに、学 校行事等においてキャリアパスポート を活用して目標を設定し、振り返りを充 実できるような活動に努めた。  【次年度の方針】 児童の実態に合わせた目標を設定す ることで、夢や目標の実現に向けて取 組もうとする意欲を高められるよう にキャリアパスポートの活用を継続し て行い、各種たよりや HP 等を活用して保 護者への周知を図る。</p>
<p>1- (3) 健康で安全 な生活を実 現する力を 育む教育の 推進</p>	<p>A 4 児童は、健康や安全に 気を付けて生活してい る。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定 的 回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>1 警察署や駐在所、消防署の方 と連携した防犯教室、避難訓練を実 施し、防犯・防災意識を高め、適 切な意思決定と行動選択ができる ようにする。また、大規模自然災 害時の引き渡し訓練等、保護者と の連携体制の強化に努める。 2 食育だより、保健だよりを毎月 1回発行し、栄養面を含め食育や 健康に対する家庭の意識の高揚を 図る。 3 健康的な生活習慣の確立に向け、 家庭科や保健の授業で、栄養士や養 護教諭と連携し、授業を行い、各種 便りに掲載することで家庭へ啓発を 図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答：95.3% 保護者の肯定的回答：93.9% 地域住民の肯定的回答：100%  数値指標を上回った。 児童が主体的に安全について意識で き、適切な意思決定と行動選択がで きるような避難訓練を実施した。 食育だよりや保健だよりのほかに、献 立表や行事食、健康に関する情報など の校内掲示の充実を図り、児童や保 護者に啓発した。  【次年度の方針】 家庭科や保健の授業で、栄養士や養 護教諭を活用した授業を積極的に 行い、職員が連携して全校体制で 取り組むとともに、各種たよりや 学校 HP 等を活用し、保護者への 啓発を行う。</p>

<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>1 児童の自己肯定感を高められるよう、児童の活躍の場を設け、児童同士が認め合えるようにするとともに、担任も認め励ます指導に努める。</p> <p>2 キャリアパスポートを活用し、自分自身が様々な活動を通して成長していることを実感できるようにする。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答：91.8%</p> <p>数値指標を上回った。 学校生活全般において、児童のよいところを伝えたり、授業においてそれぞれの意見を尊重し合える雰囲気づくりを心がけたりした。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>児童の自己肯定感を高め自信をもって活動に取り組むことができるよう、個々の実態に応じた活躍の場や振り返りの機会を設ける。また、キャリアパスポートを活用し、自他を認める活動をする。</p>
<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>1 外国語活動(英語活動)を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。</p> <p>2 外国語活動(英語活動)に関する校内研修や授業を相互に見合う機会を充実して指導力の向上を図る。</p> <p>3 学習内容を生かせるような体験的な集会活動や行事などを取り入れる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答：77.6 % 教職員の肯定的回答：77.8 %</p> <p>数値指標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>英語を使った掲示物を充実させるなどして、児童が英語を使ってコミュニケーションを図ることのできる場の設定の充実を図る。</p>
	<p>A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上 ⇒保護者の肯定的回答 70%以上</p>	<p>1 現職教育に『宇都宮学』に関する研修を位置づけ、教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深めるとともに、総合的な学習の時間における『宇都宮学』の内容の充実を図る。</p> <p>2 各種たよりや HP 等を通して、『宇都宮学』に関する取組を積極的に保護者や地域に発信し、地域や宇都宮の良さに対する理解を深めさせる。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答：94.4% 保護者の肯定的回答：81.3%</p> <p>教職員・保護者ともに数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>各種たよりや HP 等を通して取組内容をより積極的に保護者に示す。また、5・6年生は総合的な学習の時間における『宇都宮学』の内容の充実を図る。</p>
<p>2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p>	<p>A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>1 児童が端末を時と場合に応じて適切に使える能力を育成できるように、授業において積極的に ICT 機器を活用する。</p> <p>2 各学年の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努めるとともに授業において学校図書館司書の積極的な活用を図る。</p> <p>3 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答：100%</p> <p>数値指標を上回った。 1人1台端末に慣れ親しみ、授業において積極的に ICT 機器を活用することができた。また、学校図書館司書と連携し、図書室を活用することができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>ICT 支援委員から学ぶ時間を確保し、ICT 教育において、実践を共有する時間を確保する。また、各学級の担任同士で情報交換する時間も確保をする。引き続き、学校図書館司書や図書委員会を中心に、読書活動を推進していく。</p>

<p>2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>1 総合的な学習の時間における環境教育や「みやエコスクール」等を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 2 環境教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して計画的に実施する。 3 授業などで、SDGsの書籍や掲示物等を通して「持続可能な社会」について紹介し、学ぶ機会を設ける。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答：66.7% 児童の肯定的回答 92.9%  教職員の回答は数値指標を大きく下回った。  【次年度の方針】 5年生の総合的な学習の時間を中心に環境教育を充実させる。また、環境委員会を中心として、生活の中で、節水節電などを呼び掛け、環境と調和しながら生きていくことの意識や態度の育成に努める。教職員を対象に環境教育に関する研修を行うと共に、年間計画の確認をする機会を設ける。</p>
<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>1 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 2 特別支援学級の児童はもとより、通常の学級においても、必要に応じて個別の支援計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答：94.4%  数値指標を上回った。 特別支援教育コーディネーターと児童指導主任を中心に配慮の必要な児童の共有を図ることができた。  【次年度の方針】 通常の学級における特別支援教育を推進し、児童のニーズに応じた合理的配慮を実施していく。</p>
<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>1 道徳の授業や学級活動において、生命尊重やいじめを題材にした授業を、全クラスが学期に1回実施する。また、学校生活全体を通して、自分の大切さとともに他の人の大切さを理解させる。 2 いじめゼロ強調月間（年2回）を設定し、いじめゼロ集会の開催や児童から募集した標語等の掲示を行い、行事・係活動等を通して、思いやりの心をもって助け合うことの大切さを理解させる。 3 異学年交流活動等の中で、複数の教職員が児童の様子を観察することを通して、いじめの早期発見と迅速な対応に努める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答：97.6% 保護者の肯定的回答：92.6%  数値指標を上回った。 各担任が中心となり、学校生活全体を通していじめが絶対に許されない行為であることを指導した。また、教職員間で日頃から児童の情報共有を行ったことで、いじめの早期発見と迅速な対応に努めた。  【次年度の方針】 引き続き、全クラスが学期に1回、道徳の授業や学級活動において生命尊重やいじめを題材にした授業を実施し、いじめゼロ集会や標語の掲示などの行事等を通して、児童が思いやりの心をもって助け合うことの大切さをとらえられるようにしていく。</p>

	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>1 担任は、いがいのあるクラスづくりに努め、児童が自己有用感をもてるようにする。</p> <p>2 教育相談、アンケート、Q-U調査等の結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体での情報共有を図る。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答：96.8 %</p> <p>数値指標を上回った。各担任は教育相談やアンケートを適切に実施し、個別に相談にのったり、校内全体での情報共有を図ったりすることができた。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、不適応傾向のある児童や不登校の兆候がある児童に関して学校全体で情報共有を図り、保護者との連絡を密にすることで早期解決に努めていく。</p>
<p>3- (3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実</p> <p>3- (4) 多様な教育的 ニーズへの 対応の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>1 創意ある活動の時間を教育課程に位置付け、教育活動にゆとりと広がりを持たせるようにする。</p> <p>2 学校行事や縦割り班活動等は、ねらいや役割を明確にした計画や指導の工夫に努め、児童が主体的かつ生き生きと活動できるようにする。また、各種便りを活用し、児童の様子がより保護者に伝わるようにする。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答：100% 地域住民の肯定的回答：100%</p> <p>保護者、地域住民ともに数値指標を上回った。学校行事やふれあい班活動等で児童に役割を与え、計画や指導の工夫に努めた。</p> <p>各種たよりや掲示物を活用し、児童の様子が保護者に伝わるようにした。</p> <p>【次年度の方針】 学校行事や縦割り班活動等において、ねらいや役割を明確にした計画や指導の工夫に努め、児童が主体的かつ生き生きと活動できるようにする。</p> <p>引き続き、学校生活において適切な場面で教師が支援や指導を行い、児童のよりよい人間関係の構築に努めていく。</p>
<p>4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>1 基礎・基本を重視し、自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等の能力を育成するために、学習内容に応じた学習形態の工夫や教材・教具の工夫を図り、個に応じた学習指導を充実させていく。</p> <p>2 宇都宮モデル「はっきり・じっくり・すっきり」を手立てとして、課題の提示の仕方・課題解決の方法・学習の振り返りを適切に行い、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、指導・支援に当たる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答：96.5 %</p> <p>数値指標を上回った。分かる授業を実践するため、教材研究を行ったり、少人数指導やITを活用した授業を展開したり、かがやきルームと連携した学習指導を行ったりなど、様々な指導の工夫を行ってきた。</p> <p>【次年度の方針】 さらなる指導力の向上に努め、児童の授業に向かう積極的な態度を育むとともに、一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の充実に努める。</p>

<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>1 教員と専門性を有するスタッフとの間で、それぞれの役割を明確にし、連携・分担を適切に行い、学校の教育力が向上するようなコミュニケーションに努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答：88.9%  数値指標をやや下回った。 行事や授業等、職員間で常に話し合いながら事に当たっているが、一部報・連・相不足の場面も見られた。  【次年度の方針】 報・連・相の推進を図っていく。引き続き、本校のチーム力を教育活動や授業力の向上につながるように努める。</p>
<p>4- (3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>1 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識するとともに、校務分掌の見直しや人員の配置を工夫し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 2 専門性を生かした教育活動を充実させ、「チームとしての学校」を推進し、学校内外の多様な人材が能力を発揮し、それぞれの専門性を活かした活動を展開する。 3 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答：88.9%  数値指標をやや下回ったが、多くの職員が勤務時間を意識し、業務の効化に取り組んでいる。  【次年度の方針】 働き方改革については、継続して取り組むようにする。教職員それぞれの専門性を活かした活動を展開していく。各種システムに関しては、今年度クラウドサービスを活用して会議打合せのペーパーレス化を推進したので、さらに運用の工夫に努める。</p>
<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>1 学習習慣確立のために晃陽地域学校園として設定した「あいさつ・返事・姿勢」について、小中9年間継続指導を行う。 2 6年生の中学校訪問の機会をとらえて小中交流活動を行う。 3 学校だよりや学校園だよりを活用し、取組の内容を、積極的に発信するとともに、地域や家庭においても協力してもらえるように啓発する。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答：79.3 %  数値指標を下回った。  【次年度の方針】 学校園として設定したためあてや活動内容などを学年だよりや学校園だより、学校HPを活用し、引き続き情報を発信していく。</p>
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>1 地域協議会各部会活動と連携し、学校運営の充実を図る。 2 学校ボランティアの活用やふれあい活動の推進など、地域と連携した教育を積極的に実践する。 3 出前授業や民間企業と連携した活動を年計に位置付ける。 4 授業参観、フリー参観及び学校行事を活用して学校の取組を披露することで、学校・家庭・地域が一体となって児童を育てる雰囲気醸成する。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答：90.3% 地域住民の肯定的回答：90.9%  保護者、地域住民ともに数値指標を上回った。 本校の特色でもある学校ボランティアの活用やふれあい活動は軌道に乗り、運営がスムーズになってきた。  【次年度の方針】 引き続き、地域協議会の活性化を進め、学校ボランティアや出前授業、民間企業との連携した活動を進めていく。また地域保護者に教育活動を紹介する機会を増やし、各種たよりや学校ホームページを活用し実践内容について情報を発信し、活動について周知を図る。</p>

<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>1 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等のチェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。</p> <p>2 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。</p> <p>3 熱中症予防対策、感染症予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答：83.9% 地域住民の肯定的回答：100%</p> <p>保護者の肯定的回答は数値指標を下回った。引き続き、安全な学校づくりを進め、多くの保護者にアピールしていきたい。</p> <p>【次年度の方針】 児童をはじめ、学校を利用するすべての人が安心安全に過ごせるように、引き続き、定期的な点検や修繕を行う。また、児童自身も安全について意識しながら生活できるように支援していく。</p>
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>1 授業において、ICT機器を適切に活用している。</p> <p>2 ICT支援員と連携し、機器の整備や児童への指導を行っている。</p> <p>3 学級担任同士で連携し、ICT教育の活用の仕方を話し合う時間を確保する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答：100%</p> <p>数値指標を上回った。 学級担任同士で連携し、ICT教育の活用の仕方について話し合う時間を確保し、良かった実践を取り入れるなどして、授業で活用する事ができた。</p> <p>【次年度の方針】 ICT支援員や各学級の担任の教諭と連携し、機器の整備や児童への指導をするだけでなく、実際に授業を行い、学級担任同士で共有する時間を確保する。</p>
	<p>B1 ○児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>1 児童を主体とした年4回のあいさつ運動を実施する。地域学校園においても、年2回、時期を合わせてあいさつ運動を展開する。振り返りカードの活用や表彰により実践意欲を高める。</p> <p>2 あいさつの意味や大切さについて考えさせる機会を設定し、進んであいさつをしようとする態度を育てる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答：89.4% 教職員の肯定的回答：94.4% 保護者の肯定的回答：71.0% 地域住民の肯定的回答：100%</p> <p>教職員・地域住民において数値指標を上回った。 あいさつ運動を年2回行い、その中でも、自主的にあいさつ運動を行えるような日を設定し、日頃からあいさつについて継続的に指導した。</p> <p>【次年度の方針】 校内での活動や地域学校園での活動などに引き続き取り組んでいく。また、各種たよりや学校HP等を活用して保護者に周知していくことで、学校・家庭・地域が一体となって活動を継続していけるようにしていく。</p>

	<p>B2 ○児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>1 全職員の共通理解に基づき、基本的な生活習慣の形成と社会規範及び責任を果たそうとする態度の育成に努め、「篠井小よい子の約束」を確認する。</p> <p>2 生活目標の達成を目指し、振り返りによる指導も徹底する。</p> <p>3 授業、学校行事など毎日の生活の中で、時と場に応じた態度や行動の指導を行う。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答：94.1 % 教職員の肯定的回答：94.4 % 保護者の肯定的回答：84.4 % 地域住民の肯定的回答：100%</p> <p>児童・教職員・地域住民において数値指標を上回った。 地域学校園での共通課題や「篠井小よい子の約束」を確認する機会を設け、生活目標を意識した生活の習慣化を図った成果と考える。また、日頃から、時と場に応じた態度や行動について教職員全体で指導してきた。</p> <p>【次年度の方針】 日頃の指導に加え、全校集会や集団下校など児童全員が集まった際を利用するなどして、生活目標や決まりを確認する機会を設け、児童の規範意識の醸成を図っていく。</p>
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B3 ○児童は地域のよさを理解して様々な人々とのふれあいを大切に、地域に愛情や誇りをもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>1 ふれあい活動やみどり活動、たんぼぼの会による読み聞かせなど、地域の方による活動に進んで参加し、感謝の気持ちをもてるようにする。</p> <p>2 生活科や社会科の校外学習、特別活動などを通じて、篠井地区について理解し、風土や歴史、地域の人々に対して、愛情や誇りをもてるようにする。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答：94.1 % 教職員の肯定的回答：88.9 % 保護者の肯定的回答：68.8 % 地域住民の肯定的回答：100%</p> <p>児童と教職員、地域については、ほぼ数値指標を上回ったが、保護者の肯定的回答が数値指標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き授業参観や各種たより、学校ホームページを活用し、活動内容について、保護者にも情報を発信していく。</p>
	<p>【数値指標】 B4 ○児童は生活をする中で、見通しをもって計画的に物事を進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 学習や生活の場面で、目標をもち、見通しをもって、計画的に物事を進めている。</p> <p>2 学習や生活の場面で、問題が生じたとき、それまでのやり方を見直し、より良い方法について考え、改善しようとしている。</p> <p>3 各種たよりやHP等を通して取組内容を積極的に保護者に示していく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答：87.1 % 教職員の肯定的回答：83.3 % 保護者の肯定的回答：74.2 %</p> <p>児童の肯定的割合が数値指標を下回り、保護者の割合も下回った。</p> <p>【次年度の方針】 児童が授業や学校生活で目標を持って取り組むために、クラス全体や個別に声掛けをしたり、支援の工夫をしたりすることを通して、習慣化を図っていく。支援に必要なツールを共有し、情報を発信していく。</p>

## 〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

### 1. 学習面

A7「宇都宮の良さ」の項目では、教職員・保護者共に指標を上回り、特に総合的な学習の時間における宇都宮学の内容の充実が具体的な評価として表れている。今後も、各種たよりやHP等を通して取組内容をより積極的に保護者に示していく。

A14「分かる授業やきめ細かな指導」についても、指標を上回り、少人数指導やTT、かがやきルームとの連携など、一人一人の実態に応じた多様な工夫を行ったことを通して、児童の意欲的な授業態度を育むことができたと考える。

一方で、A6「英語を使ったコミュニケーション」やA9「持続可能な社会」への関心が指標を下回った。次年度の方針としては、英語を使った掲示物を充実させるなどして、児童が英語を使ってコミュニケーションを図ることのできる場の設定の充実を図っていききたい。また、教職員を対象に環境教育に関する研修を行い、年間計画の確認をする機会を設けることで、組織として指導体制の強化と意識の向上を推進していききたい。

### 2. 生活面

A4「健康・安全」の項目では、児童や地域住民、保護者共に指標を上回り、児童が主体的に安全を意識し、適切な意思決定と行動選択ができるような避難訓練の実施や、安全意識への啓発が気を付けて生活していこうという意識につながったと考える。A5「自分の良さ、成長」についても、児童の活躍の場を設け、児童同士が認めあえる機会を設けていったことで、多くの児童が自分のよさや成長を実感できている。

一方で、A3「目標に向かってあきらめずに取り組む姿勢」や、B4「見通しをもった計画的な行動」が教職員、保護者ともに数値指標を下回った。これらに対する方針として、児童の実態に合わせた目標を設定することで、夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲を高められるようにし、キャリアパスポートの活用を継続する。また、クラス全体や個別に声掛けをしたり、支援の工夫をしたりすることを通して、習慣化を図っていききたい。

### 3. その他（学校運営・地域連携）

A13「明るいいきいきとした雰囲気」の項目では、保護者・地域住民ともに100%という高い肯定的解答であった。これは学校行事やふれあい班活動等で児童に明確な役割を示し、計画や指導の工夫に努めた結果と考える。また、A18「家庭・地域連携」も指標を上回り、本校の特色である学校ボランティアの活用やふれあい活動が軌道に乗り、地域と一体となった教育活動の運営がスムーズに行なってきたと考えられる。

一方で、A15「チームとなり協力しての業務」やA17「小中一貫教育」では、指標を下回った。職員間の情報交友の徹底や小中一貫教育の周知不足と考えられる。「チームとなり協力しての業務」については、次年度は報・連・相のさらなる推進を図り、クラウドサービスを活用した会議のペーパーレス化をさらに進めるなど、業務の効率化と情報の円滑な伝達に努めていきたい。

A17「小中一貫教育」については、学校園として設定したためあてや活動内容を各種たよりやホームページ等で積極的に発信し、家庭や地域とのさらなる連携強化を目指していくようにする。

## 7 学校関係者評価

- ・子供たちは真剣に活動に取り組み、いじめ防止や思いやりの意識も高く、心身ともに健やかに成長している。
- ・松寿会との交流や多様な体験活動は、地域性を生かした独自の教育として定着しており、高く評価された。
- ・今後は中学校進学を見据え、目標に向かって粘り強くやり抜く力の育成を小学校段階からさらに強化する必要がある。
- ・PDCAを意識した生活習慣、的確な目標設定の在り方についても改善してほしい。
- ・来年度、学校、PTA、地域と協力して復活する「米作り」は、学校と家庭、地域を結びつける有益な活動として大きな期待が寄せられている。
- ・「家族とともに」をテーマに、より多くの保護者の協力を得ながら、活動のさらなる充実を図りたい。
- ・子供たちが体験を通じて得た学びをこれからの生活に生かせるよう、地域一体となった支援を継続していく。

## 8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・昨年度との比較においては、多少の数値に変化はあるものの全体的に概ね良好との評価をいただくことができた。学校の自己評価や保護者・地域協議会委員の皆様から寄せられたご意見などを真摯に受け止め、次年度の方針について具体的に検討していきたい。

・評価の高い項目に関しては、次年度も継続して取り組んでいくものも多いが、課題のあった項目についてはさらなる具体策を十分に検討し取り組んでいく。特に、B3「児童は地域のよさを理解して様々な人々とのふれあいを大切に、地域に愛情や誇りをもっている」の項目では、保護者の回答を児童の回答が25.3%も上回った。特色ある学校づくりのふれあい活動やみどり活動等で地域の方々への感謝の気持ちが高まったためと考える。次年度も地域にご協力をいただきながら継続していきたい。

・教職員・児童の肯定的解答率と保護者の肯定的解答率には差が見られた。特に児童のあいさつに関しては、保護者の肯定的解答が低い傾向にあった。このため、児童には、あいさつの意味や大切さについて考える機会を設定し、進んであいさつをしようとする態度を育てていきたい。また、あいさつ運動などの取組を保護者や地域へ多様な方法で周知していきたい。

・地域への理解や様々な人々とのふれあいについては、主体的に学び、自分の思いや考えを伝え合うことを目指した授業や、みどり活動、稲作体験など地域の方からの学び活動をさらに充実させていく必要がある。加えて、これらの取組や児童の様子を、学校だよりやホームページだけでなく、市民センターとの連携など他の手段も模索しながら発信し、保護者や地域の学校教育活動への理解が深まるよう努めていきたい。

- ・「小中一貫教育・地域学校園」の取組に関しては、富屋小学校や晃陽中学校と行事や活動などで積極的に連携を図っている。さらに、普段の授業や行事の中でも何か連携が図れないか、模索していき、その際の活動の様子が保護者、地域に伝わるように周知方法を検討していきたい。
- ・来年度は、今年度の評価を生かし、よりよい自己と社会のために考え、行動する児童の育成に向け、特色ある教育課程を推進していきたい。